

クロマツシンポジウムが開催されました

## 庄内の宝、大いなる遺産を語り継ぐ

庄内砂丘の海岸林について、広く市民に情報を発信し、海岸林を守り育てる機運を高めようと、初めてのシンポジウムが十月三〇日（土）に、酒田市総合文化センターで約三百名の参加者を得て開催されました。大きな特徴は、行政主導の企画でなく、NPO庄内海岸のクロマツ林をたたえる会（以下「クロマツの会」）が主催し、出羽庄内公益の森づくりを考える会が協力して開催したことで、ユニークで内容のある催しとなりました。

### ◆事例発表

オープニングは西遊佐小学校のオリジナル曲「松林の歌」のメロディにのせて幕が開きました。西遊佐小学校、十坂小学校、酒田中央高校の順で、先生や児童生徒により、各校の活動紹介が、巧みなプレゼンテーションを駆使して行われ、参加者に大きな感銘を与えました。

### ◆パネルディスカッション

「庄内海岸砂防林の明日を語る」というテーマで、山形大学農学部の中



パネルディスカッション

致をみました。

### ◆映像で綴る植林の歴史

庄内には須藤儀門氏や浜中地区で所蔵する写真など、極めて貴重な映像資料が残されています。それらの貴重な写真約一〇〇点をデジタル化して編集し、砂防林の過去・現在・未来を五分間に凝縮したプレゼンテーションを上映しました。今は緑に覆われている庄内砂丘の、数十年前の飛砂に苦しむ暮らしかや植林の様子を目にし、会場は静まり返って深い感動に包まれました。

### ◆大会決議「クロマツの歌」

クロマツの会の砂山弘理事長が、などを盛り込んだ大会決議文を読み上げ、盛大な拍手のもと、今後も力を合わせて地域の宝を守り育てていくことを確認しました。そしてフィナーレは、地元のブルーグラスバンド「日和山楽団」の演奏で、オリジナル曲の「クロマツの歌」を会場全体で高らかに歌い上げて幕を閉じました。

### ◆砂防林を育てよう

翌日の日曜日は、シンポジウムで確認した理念を実行する意味で、今年で5年目となった飯盛山地区の砂防林整備ボランティアが行われました。悪天候の中、約一五〇名の参

加者が枝打ちなどの作業に汗を流しました。中高生の参加者も毎年増えてきており、恒例の地域活動として定着してきている様子が伺えました。「庄内総合支庁森林整備課」

